

## 【技術報告賞】 田近 淳 氏（株式会社ドーコン，正会員）

- 受賞技術報告：地すべり末端隆起の多様な内部構造：2018年北海道胆振東部地震によるテフラ層すべりの例，第57巻3号（5月号），pp.12-17.
- 著者：田近淳，雨宮和夫，乾哲也，戸田英明，西野功人，高見智之

### ●受賞理由：

地すべりの運動形態によって被害の規模や質に大きな差を生じるので，運動像を類推するための移動体の形状，とくに被害と直結する末端部の形状に関する調査は極めて重要です。さらに，移動体の内部構造は，地すべりの変形・運動のプロセスを記録しており，各種の解析に必要な情報を提供します。しかしながら，これまでに報告された地すべり移動体の内部構造の詳細に関する研究事例は僅少といえます。

本技術報告は，2018年北海道胆振東部地震で発生した厚真町幌里A地すべり（仮称）を調査対象として，移動体末端部の内部構造を詳細に記載し，末端部の隆起過程・メカニズムを考察しています。本技術報告では，末端部隆起帯の形成に関する以下のメカニズムを明らかにしました。

- ①移動体末端部でのデタッチメント褶曲の形成，さらにそれがランプ上を移動して隆起帯を形成，
- ②移動体がランプを乗り越えて定置したことによる隆起，
- ③移動体が全面の低地に衝突・潜り込み，低地の地層をめぐり上げたことによる隆起，
- ④低地上に停止した移動体に後続の移動体が積み上がったことによる隆起帯の形成。

また，内部構造に基づく運動形態から被害状況を考

察しています。

構成地質が異なっても同様のバリエーションがあることも指摘されており，本技術報告の着眼点は他の地震地すべりへの適用も可能で，斜面崩壊・地すべりの運動形態・形成過程の解析にも大きく貢献すると考えられます。研究成果を迅速にまとめ上げて早期に公表されたことに加え，学術的にも有意義な知見を有しています。よって本技術報告を技術報告賞に相応しいと評価いたしました。

推薦者：学会誌編集委員会

### ● 略 歴 ●

- 1978年 北海道大学理学部卒業
- 1979年 北海道立地下資源調査所 研究職員
- 2007年 北海道立地質研究所 環境地質部長
- 2010年 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 地質研究所地域地質部長
- 2014年 株式会社ドーコン 環境事業本部 技術顧問，現在に至る 博士（理学）

